

送る言葉

教室の窓から差し込む日差しにも、春の暖かさが感じられるようになりました。

本日旅立たれる第七十三期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方と過ごした二年間の思い出が、昨日のここのように思い出されます。先輩方との最初の思い出は、二年前の小中交流会でした。中学校の校舎を優しく案内してくださった先輩方は、一歳差とは思えないほどしっかりされており、慣れない環境でも安心することができました。そのあとの部活動見学では、私たちに明るい笑顔で、「この部活に入ってね」と声をかけてくださり、先輩方と一緒に部活動をしたいと心から思いました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちが入学してから、活動に制限をかけられたり、練習時間が短くなったりしました。ですが、先輩方は限られた時間の中で自分達の全力を尽くされ、弱音も吐かず、後輩である私たちにも優しく接していただきました。

私は運動部に所属していますが、先輩方からは技術だけではなく、集団生活のルールや、あいさつの大切さなどを教えていただきました。現在私たちは後輩を指導する立場になり、一年生の頃には気づかなかった人を動かすことの難しさや、その行動に対する責任感を、今になって感じています。そして、改めて先輩方の凄さを感じています。

また、部活動以外の場面でも、先輩方の輝く姿が思い出されます。

例えば、体育大会。集団行動では一系乱れぬ演技で三年間の集大成を私たちに見せてくださり、さすが最高学年だと思いました。団体競技では全員が身を乗り出して応援し、競技に臨む時だけでなく、応援する時も心が一つになっていたのが印象的でした。

私たちを励まし、高めてくださった先輩方との二年間はかけがえのない宝物です。本当に今までありがとうございました。

いつも私たちをまとめ上げてくださった先輩方が卒業されると思うと、心細くなります。ですが私たちは今まで教えてもらったことを受け継ぎ、先輩方に負けないぐらい、この二中をより良いものにしていきます。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康と、一層のご活躍を心からお祈りし、送る言葉とさせていただきます。

令和四年 三月十五日
在校生代表